



東北防衛局では、日米の相互理解を深める取組みとして、在日米軍関係者と地域の住民の方々がスポーツ、文化などを通じて交流を行う「日米交流事業」を開催しています。

令和7年3月1日(土)、米空軍三沢基地やその周辺に所在する日米の小学生とその保護者を対象とした、日米交流ひな祭り in TOHOKU Town 2025 を青森県上北郡東北町の小川原湖交流センター「宝湖館」で開催しました。

日米の親子約50名が集まり、交流ゲーム、万華鏡工作、琴の演奏、着物の試着、餅つき体験で交流を深めました。

交流に先立ち、池松英浩東北防衛局長が「日本とアメリカは互いにとって大切な国です。私たち東北防衛局は、日本人とアメリカ人がこれからもずっと友達であって欲しいと願っています。」と挨拶し、続いて、来賓を代表して長久保耕治東北町長が「ここ、小川原湖交流センター「宝湖館」で今日一日、ゆっくり、楽しく過ごしていただき、三沢基地と東北町の交流が更に図られることを願っています。」と挨拶しました。

交流ゲームでは、参加者がお互いの名前を順番に覚えて発表していく「お名前おぼえてゲーム」のほか、ピンポン球を穴の空いた新聞紙に乗せてリレーでゴールに運ぶ「新聞紙ピンポン球リレーゲーム」を楽しみました。

万華鏡工作では、親子が協力して、和紙やマジックペンでオリジナルの万華鏡を作成しました。

琴の演奏では、「和輪わの会」の村上まゆみさんが、「さくらさくら」と「うれしいひなまつり」を披露しました。演奏後は、希望する児童が実際に琴に触れて、琴の音を体験しました。

着物の試着や餅つき体験も楽しんだ参加者からは「最高に楽しかった。」「アメリカ人の友達が出来てとてもうれしいです。」と感想が寄せられました。

東北防衛局は、在日米軍と地域住民の方々の相互理解の一助となるよう、今後も様々な形で活動してまいります。



【お名前おぼえてゲーム】



【新聞紙ピンポン球リレーゲーム】



【万華鏡工作】



【万華鏡工作】



【琴の体験】



【餅つき体験】



【着物の試着】



【着物の試着】



【集合写真】